

高等部手芸Aグループ 作業学習指導案

1. 単元 『製品作りを通して、働くことを学ぼう』

2. 指導についての考え方

○生徒の実態

本グループは1年生〇名、2年生〇名、3年生〇名の計〇〇名（男子〇名、女子〇名）である。障がい種は知的障がい、自閉症だけでなく精神面でのケアが必要な生徒などである。生徒たちは各々の作業に随分慣れてきており、自分にあった作業を選んで、自分のペースで取り組んでいる。難しい作業にも積極的に取り組み、最終的には一人で製品を作る満足感や自信を味わっている。その一方で、作業の正確さ・作業中の正しい言葉づかいや態度に乏しいといった課題も挙げられる。

○単元設定の理由

手芸Aグループは生徒それぞれにあった作業に取り組み、個々が責任を持って製作している。さらに、作業の工程が細かく分かれているため、その都度、報告や質問する場面を必要とし、「働くこと」を学ぶには適した内容である。本グループで製作している製品の中には、中学部のときに経験をした作業も含まれており、生徒にも親しみが持てる単元である。生徒それぞれの実態や興味・関心に応じて、ミシンがけ、スウェーデン刺繍、ビーズ通し、アイロンビーズ、エコラフト手芸等の作業を選んで取り組み、多様な製品作りができると考える。

本単元では、バザーに向けての作業になる。本グループのスローガンは「いろんな工夫をしてきれいな製品をつくるぞ!!」であり、作品を丁寧に作ろうとする気持ち、責任を持って製作する態度を意識させながら指導していく。また、あいさつや質問、報告など、作業をしていくうえでの基本的な姿勢が身に付くことを目指す。

○支援にあたっての考え方

学習内容の工夫

- ・生徒各自がそれぞれに興味・関心をもち、実態に合った作業内容を選択する。
- ・見通しを持って作業が進められるように、本日の工程を各自で作業予定用紙に記入し、さらに写真カードを提示して「今日の作業」を確認する。
- ・補助具の活用

学習集団の工夫

- ・姿勢を正して話をきちんと聴く雰囲気作りをし、集団の質を高めていく。
- ・大きな声が苦手な生徒も一緒にあいさつできるように、声の大きさに気を配り協力する。
- ・生徒各々の得意分野をいかし、協力して1つの製品を作りあげる。
- ・完成した作品を披露し、お互いを認め合う集団の育成および集団の成長を促していく。

学習環境の工夫

- ・作業目標を掲示し、生徒の意欲を引き出すように努める。
- ・教室中央に教材用の棚を設置し、生徒が自分で道具の準備や片付けができるようにする。
- ・作業台は対面式ではなく、作業に集中しやすい配置にする。

3. 単元目標

- ・作る喜びと作品を完成させた達成感を味わう。
- ・自分の作業内容がわかり、集中して持続的に取り組む。
- ・用具の適切な扱い方がわかり、安全に気をつけて作業できる。
- ・あいさつや返事、報告ができる。
- ・バザーを通して「働くこと」を学ぶ。

4. 生徒の実態と目標

	A男 (〇年)	B女 (〇年)	C男 (〇年)
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して作業できる。 (手遊びや離席, 独り言をなくしていく。) ・姿勢を正して作業に取り組める。 ・わからないときや失敗したとき, また報告を自分からできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い製品作りに励む。 ・集中して作業できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業室で安定して過ごせるようになる。 ・自分から作業に取り組み, 少しずつ作業時間を延ばす。 ・作業の手順や内容がわかり見通しを持って取り組むことができる。 ・作業でかかわる人間関係の幅を広げていく。

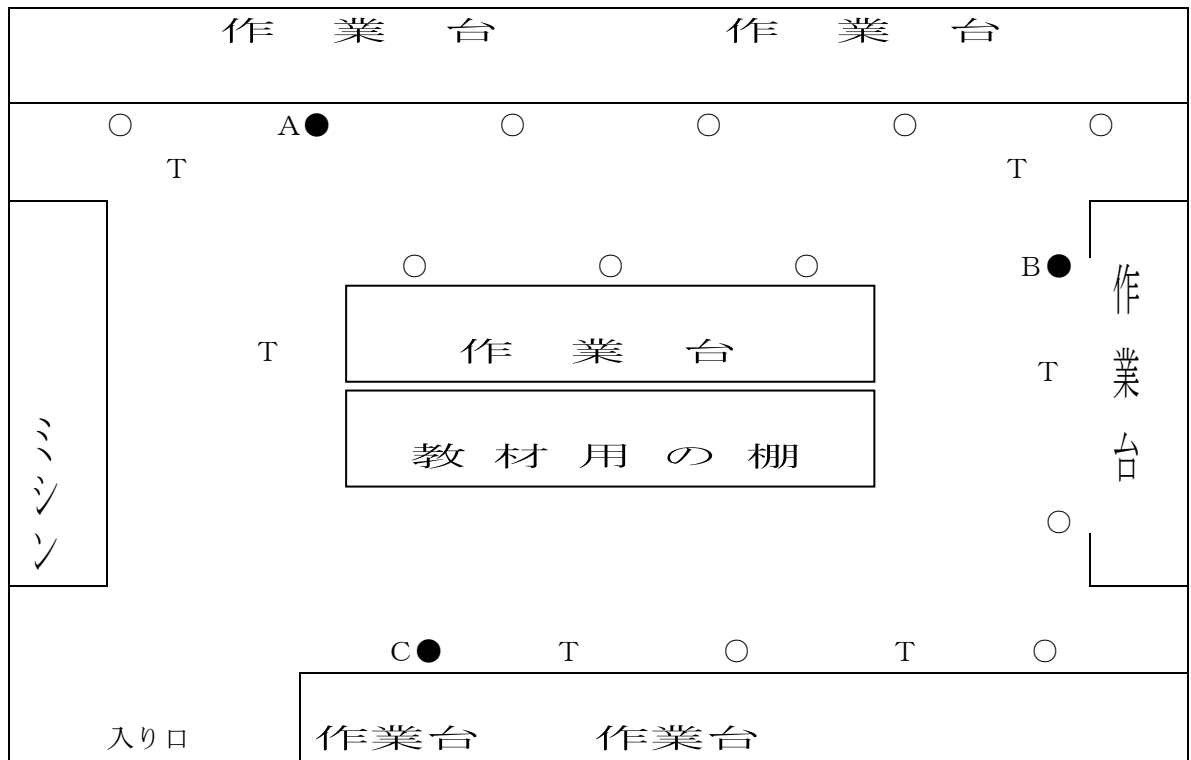
単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデン刺繍の直線いは, やや糸の引き加減が強くと, 糸のよれはあるものの自分で作業できる。糸の準備から糸通しもできるが, 時々上の空で手が止まっていることがある。長時間にわたり同じ作業をすると集中力に欠ける傾向にある。作業に取り組む姿勢があまりよくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた量を少しずつこなすことができる。 ・回りの状況や本人の体調によって集中できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目で見えて作業の分量や内容が比較的簡単で, すぐに終わりそうであれば参加できる。 ・早く終わらせたい気持ちが強くあせって仕事をする。 ・集中して取り組める時間が短い。
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・時間いっぱい集中して作業できる。 ・説明をしっかりと聞いて, 正確に作業を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいに作業する。 ・集中して作業できる時間を長くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に見通しを持って, 安定して約束した活動ができる。 ・課題に集中して取り組む時間を増やす。
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して作業するように随時, 声をかける。 ・刺繍に必要な糸の配色を考え, 数本一緒に準備するように促す。刺し終わったら, 糸の引き加減の調節とよれの直しを行い, 終了報告を受け確認しながら作業を進めるようにする。 ・集中力を持続するように, 時間内で行う目標を立て作業意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みやすい(アイロンビーズの)型紙を準備しておき, 目標数を決めながら製品を作る。 ・見通しを持ち, 集中するために, 適切な作業量を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動内容のスケジュールを提示して, 自分で取り組む課題を選び, 約束して自分から活動に参加できるようにする。 ・比較的取り組みやすい課題から入り, 成就感, 達成感を味わい, 自分に自信を持ち, 更に次の課題へ意欲的に取り組めるように支援していく。 ・作業室に安心して入室できるように挨拶の声を配慮する。

5. 指導計画

月	10	11	12	1
作業内容	スウェーデン刺繍・クロスステッチ 小物入れ・カードホルダー コースターなど	本 時		○ ○ ○ バ ザ ー
	ビーズ手芸 マグネチオン・アクセサリ ブレスレット・アイロンビーズなど			
	布製品・ミシンがけ ランチバッグ・巾着袋・雑巾			
	エコクラフト手芸 マスコット・キーホルダー・ペン立て			
	後 期 実 習			

6. 本時について

○場の設定



○準備

スウェーデン刺繍	刺繍針・刺繍糸・刺繍用の布・クロスステッチ図案集・はさみ・糸通し器・マーカーなど
ビーズ手芸	各種ビーズ・ナイロン糸・セロハンテープ・はさみ・ケース・製作図案集など
布製品・ミシンがけ	布・ミシン・しつけ糸・ミシン糸・紐・はさみ等
エコクラフト手芸	クラフトバンド・ボンド・はさみ・製作ガイド本・アクセサリ・鈴・紐など

○本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自分の作業内容がわかり，集中して持続的に取り組む。
- ・あいさつや返事，報告ができる。

(2) 展 開

	めざす姿	評 価 の 観 点
A	・スウェーデン刺繍がきれいにできる。	・1目3糸を正確にすくい，糸がよれることなく，また配色を間違えることなく，20cm幅の布に5本刺繍できる。
	学 習 内 容 と 活 動	支 援 の 工 夫
	1. あいさつ 2. 作業内容 めあての確認 必要な用具の準備 3. 作業開始 ①模様を確認する ②糸を選ぶ ③糸の長さをはかる ④糸を切る ⑤糸に針を通す ⑥刺す ⑦糸を切る 4. 今日の評価 5. 後かたづけ 6. 次回の作業確認 7. あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・号令をかける人の方へ体の向きを変え，注目するように促す。 ・準備が一人でできるように，基本的に使う用具類は，カゴに入れておく。ハサミなどの刃物類は，作業開始のときに準備する。 ・直線縫いにするか簡単な模様挑戦するのか，本人と相談して決める。模様刺しをするときは，マーカーで刺すところに印を入れる。 ・色のテーマを決めて，後は本人の好みで選ぶようにする。 ・必要な糸の長さが切れるように，補助具を準備しておく。 ・糸通し器は本人が必要なときに使えるようにカゴの中に入れ準備しておく。なめて糸を通した場合は，糸の先を忘れずに切ることを促す。 ・刺すときはなるべく布を持たずに，机の上に置き，針を滑らせて糸をすくって刺繍するように声をかける。 ・刺繍が終わった時，糸が抜けないように布地から2，3cmの長さに糸を切れるように，補助具を準備しておく。 ※姿勢を正して作業するように，随時声をかける。 ・自分の刺繍したものをみせ，丁寧に作業できたか確認を行い，きれいにできているときは誉めることと次回行う内容を予告することで，意欲を高める。 ・自分の作業場所を中心に片付け，掃除に取り組み，素早くできたときは友人の手伝いを行うように促す。 ・次回の作業内容に見通しがもてるように伝える。

(2) 展 開

B	め ざ す 姿	評 価 の 観 点
	<ul style="list-style-type: none"> ・集中してアイロンビーズのアルファベットを作成できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本図案を見て1人でアイロンビーズのアルファベットを2つ作成できる。
	学 習 内 容 と 活 動	支 援 の 工 夫
	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 作業内容 めあての確認 必要な用具の準備 3. 作業開始 (アイロンビーズをする) <ol style="list-style-type: none"> ① 図案を準備する ② 図案と型枠を固定する ③ ビーズを準備する ④ ビーズをのせる ⑤ アイロンを準備する ⑥ アイロンをかける ⑦ 完成 4. 今日の評価 5. 後かたづけ 6. 次回の作業確認 7. あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して話が聞けるよう話し手の方を向き姿勢を正して、視線を向けるよう声かけをする。 ・午前の作業を引き続き行うことを伝える。 ・準備が一人できるように、使用する用具を、机上のカゴに入れておく。 ・図案と型枠を固定するためのセロハンテープを準備しておく。 ・時間内に完成できるビーズの量を考え、準備する。 ・ビーズをつかみやすいようにピンセットを準備しておく。 ・アイロンの取り扱いに十分気をつけるよう声かけをする。 ・アイロンをゆっくりと押さえながらビーズを溶かし、少しずつビーズをくっつけていくように助言する。 ・完成した作品数がわかるように、出来上がった作品を入れる箱を準備しておく。 ・今日の作業を振り返り、きれいにできている時は褒め、次回への意欲を高める。 ・用具は机上のカゴの中に入れ、整理するように声かけする。 ・見通しをもって取り組めるように、次回の作業内容を確認する。 ・集中して話が聞けるよう話し手の方を向き姿勢を正して、視線を向けるよう声かけをする。

(2) 展開

	めざす姿	評価の観点
C	・作業に見通しを持って安定して取り組むことができる。	・作業室に安心して入室でき、最後まで落ち着いて作業ができる。
	学習内容と活動	支援の工夫
	<p>1 あいさつ</p> <p>2 作業内容 めあての確認</p> <p>必要な用具の準備</p> <p>3 作業開始 (スウェーデン刺繍をする)</p> <p>① 模様を確認する</p> <p>② 糸選ぶ</p> <p>③ 糸に針を通す</p> <p>④ 糸を2重にして長さを測る</p> <p>⑤ 糸を切る</p> <p>⑥ 刺す</p> <p>⑦ 糸を切る</p> <p>4 今日の評価 (完了報告)</p> <p>5 後かたづけ</p> <p>6 次回の作業確認</p> <p>7 あいさつ</p>	<p>・安心して入室できるようにあいさつは優しい声です。</p> <p>・今日の作業内容を話し合っ決めて、作業予定の用紙に記入するように促す。</p> <p>・準備が一人でできるように、基本的に使う用具は各自の机の上に用意しておく。</p> <p>・生地の色や目の大きさなど、本人と相談して決め、確認のもとに取り組むようにする。</p> <p>・糸の色の配列は、今回はモデルのコースターと同じ配色になるように用意した糸の中から選ぶようにする。</p> <p>・自分の布の幅に合わせて必要な糸の長さを見極めて切るように見守る。</p> <p>・糸を2本きちんと揃えてから刺し始めるように声を掛ける。</p> <p>・あまり短くならず切るように見守る。</p> <p>・作業終了確認のためにリーダーの教師に報告をするように促す。</p> <p>・今日の作業の振り返りをして、でき上がった作品を見て評価し誉めることで作業意欲が更に高まるようにする。</p> <p>・今日の作業予定用紙に自己評価と感想を書くように促す。</p> <p>・糸くずを散らかさないように机上に糸くず入れを用意して最後にまとめて捨てるようにする。</p> <p>・次回の作業内容に見通しがもてるように伝える。</p> <p>・本人に配慮した声であいさつをする。</p>